

# 奈良県立 榛生昇陽高等学校

所在地 宇陀市 榛原下井足 210 番地  
 設置年度 平成 5 年度（榛原高等学校福祉科）  
 （平成 16 年 榛生昇陽高等学校に校名変更）  
 設置学科 福祉科 1 学級、普通科 4 学級



《本校福祉科の目指す生徒像》

- ①心をこめて、爽やかな挨拶をします。
- ②笑顔絶やさず、朗らかに他者と接します。
- ③何事も、まずは「はい」という受容の心もちます。
- ④正しい言葉をつかいます。
- ⑤端正で清潔感のある身だしなみをします。
- ⑥自己を管理し、心身の健康を維持します。
- ⑦謙虚な姿勢で自己の行動を振り返ります。
- ⑧他者のよいところを見つけます。
- ⑨自ら学び、考え、行動できる力を養い、自己研鑽に努めます。
- ⑩福祉社会に貢献する人になります。

取得できる資格

- ・介護福祉士国家試験受験資格



介護福祉士国家試験合格者数

（平成 28 年 3 月現在）

卒業生 752 名（榛原高校卒を含む）

受検者数 730 名

合格者数 568 名

合格率 93.9%（第 28 回国家試験合格率）

（第 28 回全国合格率 57.9%）

卒業生の進路

（平成 28 年 3 月現在）

卒業生 752 名（榛原高校卒を含む）

福祉関係への就職・進学数 595 名

福祉関係への就職・進学率 79.1%

## 校内実習の様子



食事介助実習



車いす介助実習



医ケア実習



レクリエーション実習



体位変換実習



入浴介助実習

## 卒業生から一言

福祉科に学んで

現在は奈良県内のグループホームで働いています。認知症の利用者様に生き生きと生活していただくために、常に利用者様の立場に立ち、一人一人に合ったケアを一生懸命考えて提供しています。自分で考えて提供した介護で利用者様が笑顔になると、介護職を選んで本当によかったと思います。利用者様が生活の中でできることを見つけて支援するなど、尊厳の保持を中心としたケアを今後も提供できるよう、福祉科で学んだ基本的な知識や技術を最大限生かして、笑顔で頑張っていきたいと思います。

榛生昇陽高校福祉科 7 期生 小和田 優子



福祉科集会（レクリエーション学習会）



# 介護福祉士めざし夏休み返上

宇陀市の県立榛生昇陽高校には、県内で唯一の福祉科がある。夏休みも返上して介護福祉士の国家試験に備え、昨年の3年生は、94%が合格した。卒業生は即戦力として、現場で活躍している。きこちなさを残しながら、介護が欠かせない人々に寄り添う群像を追った。

semaru.nara@asahi.com

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。



2人1組で着替への介助を実習する生徒たち＝宇陀市の県立榛生昇陽高校

## 宇陀・榛生昇陽高県内唯一の福祉科 実習と授業増 94%合格

「では、右腕に力を入れて下さいね。いちにの、さんで立ちますよ」。今月5日、ベッドが並ぶ福祉科の教室。薄ピンクの実習着姿の3年生が、お年寄りの役と介護者を交代しながら、着替えやトイレ介助の訓練をしていた。お年寄りは左半身がまひしていると想定し、隣に寄り添った生徒は、ひざ下を軽く支えながら慎重に立ち上がった。特別養護老人ホームでの実習を翌週に控え、生徒た

ちの表情は真剣そのものだ。おむつ交換まで練習して100分の授業を終え、本間愛さん(17)は言った。「動きに気を取られて、声がけを忘れがちになったのが反省点。施設での実践で経験を積んできたい」。卒業後は福祉施設への就職を考えているという。

福祉科では、この日の「生活支援技術」や「コミュニケーション技術」などの専門科目がある。3年間のうち65日間は、デイサー

卒業生で宇陀市室生下田口の特別養護老人ホーム「室生園」に勤める中尾健太さん(22)を訪ねた。今年で4年目の中尾さんは、約50人のスタッフの一人として入所者約90人の生活全般の介助にあたる。

兄2人と双子の弟の4人兄弟。体が弱い母の老後の面倒を見るのは自分しかない。高校でみっちの学んだつもりだったが、仕事としての苦労は全く違った。半年も経たないうちに腰も痛めてしまった。

それでも、「ありがとら、と笑ってもちろと、やっていてよかったなと思う。月並みですけど。経験豊かな人生の大先輩に教わることも多い。

中野利一理事長(56)は「いつも前向きで、彼がい

ければならないという。2007年の法改正で介護福祉士の養成に必要な研修時間が1・5倍以上に増え、時間数や実習先の確保の難しさから、福祉科を撤廃する学校が続出。県内の私立高校も廃止し、榛生昇陽高校だけになった。施設での実習を土曜日や夏・春休みにも入れ、休み時間をつぶして日々の授業時間を確保している。夏休みには

と評価する。そのうえで介護福祉士の資格がないとできない仕事は実は一つもない、と言う。「いかに利用者さんの気持ちをくみ、心地よく過ごしてもらえるかなど、目に見えないところに個々の技量や施設の質が表れる」。厚生労働省の調査によると、福祉施設の介護職員の平均賃金は月額21万6千円。全産業の32万4千円と比べて低く、年齢が上がっても他の産業ほど給

専ら努力が実り、ここ数年は国家試験の合格率9割台を維持。今年初めの試験では、34人中32人(約94%)が難関を突破し、全体の合格率64%を大きく上回った。人手不足が深刻な介護現場では近年、福祉科の高校生の求人が増えているという。

与が上がらない構造がある。「中尾さんのような若い担い手が楽しく働け、給与面でも保障される仕事にしなければ」と中野さん。

中尾さん自身、待遇面で将来への不安はある。しかし、自らに言い聞かせるようにこう語った。「でも、最近、就職活動中の同級生に言われたんです。『俺には絶対できない仕事。お前はようやくやってる』って。がんばります。」(栗田優美)

## 若い担い手待遇保障を



リハビリの介添えをする中尾健太さん＝宇陀市の室生園

【朝日新聞掲載記事より】